

AA日本ニューズレター

NPO法人AA日本ゼネラルサービス (JSO)

No.155

■ AA日本40周年記念集会(2015年・関東近郊)に寄せて

この春、AA日本40周年記念集会の実行委員会が立ちあがりました。現在、毎月定例会を開催しては熱い意見を交わしています。AAメンバーなら誰でもこの輪の中に入れます、一人でも多くのメンバーがこの実行委員会に加わって下さることを担当理事として心から願っています。皆、きっと素晴らしい経験と力と希望を手にする間に間違いありません。

さて、今回、私の注目しているアイデアが3つありますので、この誌面を借りてご紹介いたします。

B類常任理事企画担当 中村

・新しいメンバーや関係者を気軽に誘って参加してほしい

担当理事としては、日本中すべてのグループでAA日本のお誕生日をお祝いするイメージをグループメンバー各位と共有したいと願っています。そこで日本中のすべてのグループには集会サポーターを自認して頂き、各メンバーがそれぞれ新しいメンバーを誘って参加して頂ければ願うところです。実行委員会も同じ思いを持ってそれに応えられるように、現在2,000人規模の会場等を交通の便も踏まえて検討中です。

・託児所を利用して夫婦共々参加してほしい

集会開催期間に託児所を開設しよう！という計画案があります。日本のAAも40年近く経ち、メンバーのどん底の底上げが顕著になり、結婚して子育て中というメンバーも珍しくなくなって来ました。しかしその為にイベントへの参加を何度も諦めて来たメンバーも沢山いたのではないのでしょうか。私自身、結婚して子供を授かってから、夫婦共々いつしかイベントからは離れてしまっていました。そこに注目した、今世代のメンバーのAAセンスの良さを感じさせる提案だと思っています。

どうです皆さん、もしもAAのイベント会場に託児施設があったならいいなあ！でしょ。夫婦そろってAAのイベントに行き、ゆったり、安心してメンバーたちとの出会いを楽しみたいとは思いませんか？

・NPO法人名をもっともっと活用したい

日本のAAが始まって間もなく、先行く仲間たちが弛まぬ(たゆまぬ)地道なサービス活動の継続により、今の私たちの世代がAAプログラムと出会えました。そして今度は私たちが次の世代へと引き継ぐ責任を担っています。この間、JSOが開設され、現在の評議会の前身であるGSMの開催、そしてWSMさらにはAOSMへの展開、評議会の設置と、AA日本の役割は日本国内外へと広がり、それだけ社会的に担うAAの責任も重くなりました。そして私たちは8年前にJSOをNPO法人AAゼネラルサービスへと移行させて、アルコールで苦しむ人々を手助けすることで、広く地域社会に貢献するAAの立場を表明するようになりました。

今回の40周年では、是非ともNPO法人名を活用し、地域社会への認知度を上げると共に、その責任をメンバーで共有できればと思います。

以上、現在、実行委員会で計画中です。どうか期待しててください。

まとめ

それもこれも、原点は「雨が降っても、雪が降っても、飲み歩いただろ？だから、俺は今AAに行くのさ。今日一日、回復は足からだよ。」と教えてくれたオールドタイマーたちから受け継いだAA魂が、私たちの根本にあつてのことなのです。

私個人は、AA日本40周年記念集会を先に逝った愛しいオールドタイマーへの感謝と冥福の祈りの日と捧げ、世界中の新しい仲間を日本中のメンバーと共に迎えたいと願っています。

■ 30周年、35周年記念集会より

ニューズレター114号(2005年10月20日発行)より

ありがとうございました

AA 30周年記念集会 in 福岡

常任理事会議長(当時) 高橋



(看板と会場は別に撮影したものです)

9月2日(金)～4日(日)AA30周年記念集会在、福岡国際会議場で開催されました。お天気に恵まれた素晴らしい3日間でした。南は沖縄、北は北海道から集まった全国のAAメンバー、そして各地域の医療、行政等関係者が、外国からはアメリカ・カナダ常任理事会の全州選出常任理事、GSO(国際担当スタッフ)、アメリカ・カナダ評議会の元評議員、韓国、モンゴル、その他の国々からも参加され国際色豊かな、フェローシップの場となりました。

受付場所で参加者を歓迎する、着物姿の実行委員会女性メンバーたちの素敵なお笑顔が印象的でした。受付フロアは各所から集まってきたメンバーたちの再会を喜び合う光景、新しいメンバーを紹介し合い、これから一緒に歩いて行く勇気と希望が分かち合われていました。それぞれの笑顔が目を見張るほどの明るさのなかできらきらと輝いていました。

一日目のセレモニーは、和太鼓の力強い音色が、高く、低く会場一杯に鳴り響く中、三日間の幕開けとなりました。1000席の会場は、ほぼ満席に近く埋め尽くされ、固唾をのんで見守る中、太鼓の囀子を背に、獅子舞が舞台一杯に飛び跳ね、客席にも降り立って舞う姿は壮観でした。

3日間に渡る集会の中で、幾つもの感動した場面がありました。その一つはフラッグ行進でした。特にアメリカの元評議員が自国の星条旗を掲げての堂々たる行進は印象的で少々圧倒されてしまいました。また、日本の都道府県の記されたプラカードを各メンバーが持ち、舞台の袖から中央に進み左に折れて舞台から下りるこの僅かな時間の行進でしたが、それぞれのメンバーの晴れやかな表情、緊張した表情でプラカードを高く上げる姿、元気一杯の姿は大変に感動的でした。アメリカ・カナダのインターナショナルコンベンションに遜色ない程であり、実行委員会の素晴らしいアイデアと知恵と苦労が実った場面でありました。メンバーのソーバークラウドダウンは新しいメンバーへの会場が割れんばかりの盛大な拍手の中で行われた素晴らしい光景でした。10年以上の仲間が数多くいることに日本のAAの成長を感じました。20年以上のオールドタイマーたちの経験の分かち合いは、それぞれ短いお話ではありましたが、心に響くものがあり感動を与え、明日への希望を与えてくれたものと思います。

二日目は早朝から受付フロアにぞくぞくと、参加メンバーが押し寄せてくるという感じを受けました。30周年の記念集会にふさわしいAAの一体性を強く感じられる集まりになったことと、主催の常任理事会メンバー、そして実行委員会メンバー共々この上も無いほど喜びを感じていました。午前中は各種ミーティングあり、それぞれの飲まない生き方の経験の分かち合いがありました。午後は、20年以上のオールドタイマーたちのスピーカークラウドダウンで始まり、続いて国際シンポジウム「アジアの文化におけるAAの経験と可能性」が行われました。壇上には、現、元AA類常任理事、WSM、AOSM評議員、アメリカ・カナダGSOスタッフ、常任理事、韓国、モンゴルのメンバーが並びました。テーマに沿った各国の分かち合いや報告に会場からの質問なども加わりました。最後は時間を心配する司会者の苦労が伺われるような場面もあり、会場の出席者との一体性が感じられ、とても良い経験の分かち合いが行われたと思います。夕食会は出席者の旺盛な食欲に主催者側では、びっくり仰天というところですが、楽しいひと時でした。ご馳走が食べられなかった皆さまには心からお詫び申し上げるとともにお赦しいただきたいと思っています。続いて30年の歴史を踏まえ(いろいろあったけど)、メンバーの熱愛のこもった素敵なスピーチがありました。最後のアトラクションでは、演奏者たちのプロ顔負けの演奏に、ダンスを楽しむ仲間や演奏に聞き入る仲間のきらきらした目が感動的でした。クロージングミーティングのスピーカーの話は韓国語に逐次通訳されました。最後は参加者全員が壇上にあがっての一言メッセージ、壇の両側から交互に上がる列が延々と並び、それぞれのメンバーの心は感動で言葉には言い合えないものがたくさんあったのでは私は感じさせてもらいました。みんなで手をつなぎあい、会場から壇上へと波のうねりのように輪になり、平安の祈りで締めくくりましたが、これほど感動を与えてくれた場面は今までなかったと思われまます。終わった瞬間に感極まって抱き合う姿もあり、涙するメンバーもあり、すばらしい一言でした。

私たちがアルコール依存症から回復して社会の一員として飲まないで生きていく姿をより多くの人たちに知っていただけるよう、これからも楽しい記念集会を続けていかなければならないと思います。

ニューズレター141号(2010年4月20日発行)より

35周年集会からのいただきもの！

35周年実行委員会(当時) まな



みんなの力で織り上げたAA日本35周年記念集会は、素晴らしい時間を私達に与えてくれました。本当にありがとうございました。

2007年9月、最初の実行委員会が開催されました。イベントの規模、かかる経費、また開催日時が2年以上先であることなどから、ボンヤリとした感覚で準備が始まっていきました。30周年記念集会に参加し、その後実行委員の人に話は聞きましたが、開催するイベントのイメージが描けないことが、最初の悩みでした。ずっと後に気づいたのですが、「AA成年に達する」を読むと周年記念集会のイメージを描けると感じました。その次は、どこの会場で開催するのか、チケットの値段はいくらにすればよいのか、チケットをどのように頒布するのか、プログラムはどのように組んでいくのか、マンパワーが不足しないところをどのように補うのか・・・などなど、この2年猶予の間には様々な悩みがありました。今となっては、なつくかしく楽しい思い出ですが、当時はムカつくことしばしばで、「もう顔も見たくないわ」と心の中で罵倒してしまう時もありました。でも、3月14日幕が降りた時には、全ての実行委員会メンバーとハグしたい気持ちになりました。これだからAAのサービスは止められません！！『アルコールよりも強い惹きつける魅力』を見つけてしまいました。

今回私は、まず地域のラウンドアップの会計でウォーミングアップをし、これまで避けてきた財務を担当しました。苦手な役割を最後まで遂行できたのは、一緒にやってくれたメンバーの強力なサポートのおかげでした。やってみて改めて「苦手」だと実感しました。けれど避けてやらないことを一つ減らせた達成感がありますね。

開催当日、イベント参加はあまりできませんでしたが、みんなの力で出来上がりつつあることを肌身で感じていました。あれは不思議な経験で、素晴らしいものでした。だから3日間、私はとても幸せでした。

チケットが売れないことが心配で、いろいろな地区のOSM(オープンスピーカークラウドダウン)やラウンドアップに参加しました。そのおかげで、協力してくれているのはチケットを買ってくれる人だけでなく、もついろいろな協力があることを知り、すべてに感謝する気持ちを貰えました。そればかりでなく、いろいろなAAメンバーやAAのやり方に触れ、私の中にできていた狭い考え方にも気づくことができました。『いろいろな所へ行くことで力もらえるよ』の意味をやっと知ることができた次第です。

このようにAA日本35周年記念集会は、私に様々な霊的経験を与えてくれた素晴らしい機会でした。きっと皆さんの中にも、様々な素晴らしい経験が残っていらっしゃると思います。

一つが終わり、そして新たな始まりがすでに始まっています。今回いただいた心温まる想いを体の芯に覚えさせ、言葉で表わしきれない感謝をこれからの自分の行動で実践して行きたいと思っています。

最後にもう一度、本当に、本当に、本当に、ありがとうございました。

■ 各地域より

関係者のみなさまの大きな力に支えられて

加賀グループ 壺中

精神病院入院中の面会室で一人の仲間から、「一緒にやってみませんか？」と愛の手が差し伸べられた日からもう少しで4年になります。そのメッセージが私の生きる方向をまったく違うものに変えました。退院後、金沢で2年間毎日ミーティングに通える環境の中で生活し、その後、石川県の南端の生まれ故郷に戻って一人きりでいる母親と一緒に暮らすという目標を立てました。

しかし私の故郷周辺には、AAグループもミーティング場も存在していない状況でした。私が生きていく為には、「自分が助かる為に今苦しんでいる仲間の手助けをしていく」ことが絶対に必要でしたので、ミーティング場を開く為の行動を開始しました。地元でAAの事を知っている関係者の方もごくわずかでしたので、AAとは何かということからの説明から始めなければなりません。まず病院を回りましたが、地元にはアルコールプログラムのある専門病院もありませんし、アルコール依存症で入院している仲間は一人もいないと言われました。病院に行っても仲間に会うことはできませんので、仲間と出会う為に範囲を広げていくしかありませんでした。いくつかある保健所、行政関係、警察署、市民病院や個人の病院など、さまざまところへ必死に回りました。

当時、私には車が無かったので、交通機関の整っていない田舎で、広範囲に点在する複数の場所へ一回一回移動してすべてを訪問して回るのに何日もかかりました。毎月何日も仕事を休ませてもらうわけにはいかないので、そこで一番利便がいい自転車に変えてメッセージ活動を行っていました。しかし走る距離が何十キロもあって、冬はまだいいのですが、夏は汗びっしょりで、着く頃には汗だくになってしまっているので、リュックサックいっぱいに着替えを五枚くらい入れて、着替えながら行動していました。正直あの頃はほんときつくて、泣きたくて、投げ出しそうになりましたが「今苦しんでいる仲間の為に」と「私たちが神から離れず、神の働きに従って行動した時、神は私たちが必要なものを与えてくださった」を信じて行動し続けました。

だけども月に3日程、仕事を休ませてもらい自転車で訪問して回るのですが、すぐに結果が出ることもなく、仲間の紹介も電話もかかってくるませんでした。なぜか？自分に原因があると考えるのがAAなので、自分自身を見つめてみました。自分の努力不足でAAのことが浸透していないのも勿論ありましたが、簡単なことでした。自分が回復していないのがすべてでした。人間性や社会常識が酒と一緒に欠落していました。まず格好がふさわしくない。夏は暑いから草履とか、柄の付いたTシャツだとか、どう考えても人に会う格好ではないし、なにより内面が未熟で、どこかで「自分は病気だからこのぐらいいいだろう」と、病気を言い訳にして自分を正当化していたように思います。これでは自分の回復どころか、人間と人間との正常な付き合いもできないし、信用や信頼が得られないのは当然でした。公の機関は仲間を紹介したら責任が伴いますので、紹介しようと思っても、どんな人間かよくわからない人に、紹介できない。このことは何人かが、後になって笑いながら語ってくれました。ステップをきちんと実践して自分自身が内面から変わって、人格が変わり、信頼関係を築いていくこと。これが一番大切な事と経験から身をもって教えていただきました。

少しずつ服装もしっかりしたものに変わっていき、行動や態度など、社会の中で必要なものが自然と身につけてきていました。そういう多くの失敗や経験から学ぶ中で、ゆっくと、信頼関係も出来、信用されるようになってきて、今は、沢山の関係者の方々と良いお付き合いをさせていただいています。相談も持ってきてくれますし、仲間の紹介もしてくれます。訪問先も、今度あそこに行ってみたらいつも紹介してくれるので、訪問先も増えていきますし、私は何したら担当者の方が不在でも、必ず他の誰かに合わせていただき、何かささいな情報でもいいので持ち帰ることを大切にしていますのでAAを知ってくれる人がまた増えていきます。保健所の家庭訪問にも一緒に来てくれませんかとお誘いがあり家族や本人とも合わせていただきます。家族の方と会うことはメッセージを運ぶ上で非常に大切と感じています。一年に何人かしか入院してきませんので中々会うことができませんが、仲間が入院してきたら必ず病院からメッセージ依頼の連絡がくるので、いつもベッドサイドでメッセージをさせていただいています。

最初はこういう環境の中での活動をしていて、アルコールプログラムがあっていつでも行けば仲間に会える病院が近くにあったらいいのにな〜とか、必ず何人かの入院中の仲間がミーティングに来てくれる環境のグループがうらやましいな〜とか、中間施設があったらいいのにな〜とか思っていたのですが、実は、自分たちのほうが恵まれているなと感じるようになって来ました。じっと待っていても仲間は来てくれないので自分達の足で新しい仲間を求めて走り回ったり、多くの関係者の方々とお付き合いや経験の中で、人間として回復、成長させていただいていると強く感じています。それが仲間へのあふれる思いとメッセージにつながっているんだと思います。

今は、収入も少しですが増えて自転車ではなく車で毎月定期的に関係者の方々のもとへの活動を続けさせていただいていますが、今、車が突然無くなっても、また最初の頃のように、自転車と徒歩で何十キロでも走り回ることでしょう。一杯の酒の為なら酒を求めて同じ様に自転車でも何十キロ走り回っていたくせに、自分の回復と仲間の為に同じことが出来ないのだとしたら、自分がどんな病気にかかっているのかを忘れてるか、仲間への思いとハイパーパワーへの信仰が足りないのでしょうか。しかしまだまだ努力が足りません。今苦しんでいる仲間と出会える場所はまだまだたくさんあるはずですよ。

グループを始めて一年半が経ちました。最初は一人でした。初期の頃は、いつもミーティング会場が酒臭かったのですが、今はたくさん笑顔が溢れています。私たちが会おうのは、病院に入院して酒が抜けて、ある程度頭がすっきりしている仲間ばかりではなく、むしろその逆です。正直いろいろと骨が折れるのですが、言葉では言い表せない大きなものをもらっています。何も行動せずに新しい仲間が来てくれるのをただただ待っているだけだったら、未だに一人でミーティングをしているか自分の命が無くなっていた可能性は高かったと思います。まさに行動の無い信仰は死です。

そして、どうか回復して欲しいという思いと祈りの中で、仲間をAAに導いてくださっているたくさん関係者のみなさまの大きな力とご協力があってこそ、今の仲間の笑顔があり、多くの仲間が人生をやり直してお酒の無い生き方を楽しむことが出来ています。心よりありがとうございますと言わせてください。

今苦しんでいる仲間、まだ生まれていない未来の仲間の為に、そして自分が回復していく為に、今、自分に何が出来るかを常に思い、これからもやっていきたいと思えます。それが生かされている私の責任です。ありがとうございました。

-%:..+~'--%:..+~'--%:..+~'--%:..+~'--%:..+~'--%:..+~'--%:..+~'--%:..+~'-

九州沖縄地域 ラウンドアップを終えて

実行委員長 つかさ

-%:..+~'--%:..+~'--%:..+~'--%:..+~'--%:..+~'--%:..+~'--%:..+~'--%:..+~'-

日程 2012年6月29日～7月1日
 場所 熊本県阿蘇市 阿蘇勤労者いこいの村
 テーマ 原点にかえろう！！

出会いの輪を広げよう。新しい仲間と共に…

九州沖縄地域主催のラウンドアップの実行委員長の役割が終わった。準備期間1年、開催前数ヶ月から当日まで怒濤(どとう)のような日々だった。そして、九州沖縄地域委員会の万全なサポート体制を知ることになった。私はこれまで、自分から積極的に関わることがなく、それを知る機会がなかったからだ。素晴らしい経験をさせて頂いた。

熊本地区が担当した10年前のラウンドアップの時、現地実行委員だったというのに私は朝まで飲んでた。酔った頭で悩んだ末に、行かねばと決心して行った。カウントダウンがあるなんて知らなかった。恥ずかしいから嘘をつこうかと真剣に考えた。一番ソーバーが短かったのに大きな拍手をもらった。

今年はラウンドアップの実行委員長という役割をやらなくてはならなかった。ラウンドアップがある年の地区委員だけは引き受けたくなかった。ある仲間が「ラウンドアップの実行委員長の役割は、なろうと思ってもなれない。巡り合わせのようにあちらからやってくる。」と言ってくれた。この一言で心が楽になった。役割やとんでもない事態も出来事も計ったようにやってくる。いろいろな問題が持ち上がった。ある仲間が「この問題は起こるべくして吹き出したのだから」と言ってくれた。張り詰めていた心が穏やかになった。

10年前の熊本でのラウンドアップ。当時、熊本地区は2グループしかなかった。感情の対立も激しかった。あの頃、熊本の仲間が他県のオープンスピーカーズミーティングで、ラウンドアップを巡って怒声を上げて言い争いを始めた。私はその時 AA に繋がって2年目。何が起きているのか？何で怒っているのか？全く訳が分からなかった。お互いに言い分があるよだということだけ分かった。あの頃を懐かしく愛おしく思い出す。あれから10年…。グループが互いに協力しあい、沢山の熊本のメンバーが参加した。みんなで失敗を経験し、そして学んだ。個人も成長するし、グループも成長する。地区も同じだと思った。

飲まない日々を7年積み重ねて、飲んでた頃とは劇的に違う心穏やかな日々を過ごすとき、AA への感謝の念が深まってくる。自分で実践し、身をもって知って「回復のプログラム」である AA そのものを信じられるようになった。

ラウンドアップ初参加の熊本のメンバーに会場で「参加してみよう？」と声をかけてみた。「ハードですね！」と彼が言った。肩で息を切らしながら、きつそうだけど目がとてもキラキラしていた。

「飲まないアルコール依存症の人間があんなにいるなんて思わなかった」と言った仲間もいた。独りじゃないよね。

「実行委員で今年は大変だったから、来年の長崎はお客様で参加したい！」と、これまた初参加のメンバーが言った。

10年後ぐらいに巡ってくる熊本でのラウンドアップの時は彼らや彼女達を中心になって現地実行委員会を結成しているだろう。

ラウンドアップを共に作り上げた九州沖縄地域の仲間、遠くから足を運んで下さった仲間、そして私達の良き友人といわれる、医療、行政、施設関係者の皆様も沢山参加していただいた。ありがとうございました。

来年は異国情緒あふれる長崎。また来年、長崎でお会いしましょう。

-%:..+~'--%:..+~'--%:..+~'--%:..+~'--%:..+~'--%:..+~'--%:..+~'--%:..+~'-

AA日本7地域広報交流会を開催します

副実行委員長 佐藤

-%:..+~'--%:..+~'--%:..+~'--%:..+~'--%:..+~'--%:..+~'--%:..+~'--%:..+~'-

日程 10月20日(土) AA日本7地域広報交流会
 10月21日(日) 市民フォーラム

『東日本大震災とアルコール問題』

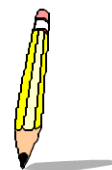
場所 宮城県仙台市 市民活動サポートセンター

最初に「AA日本7地域広報交流会」(これ以降、交流会と略)について説明させて頂きます。平成22年3月に名古屋で開催されたAA日本35周年記念集会にて「広報」についての分かち合いがプログラムの一環として開催され、その中で日本7地域それぞれの「広報」や「メッセージ」についての課題等が話し合われました。筆者も参加させて頂き、本当に有意義な分かち合いで、予定された時間では不足感が拭い切れないほどでした。そんな事から、その時の司会者から「交流会」が提起され、平成23年4月には関東甲信越地域主催で「交流会」が開催されました。その中でも引続きの「交流会」開催が提案され、併せて今回は東日本大震災によりAAの活動が求められる東北での開催が提案されました。そしてこのたび、評議会提案を受けてNPO法人AA日本ゼネラルサービス主催として上記の日程で東北の地で開催することになりました。以上が今回の「交流会」開催までの経緯です。

次に今回の「交流会」の実施内容についてですが、初日は主に仲間を中心とした「交流会」であり、「広報」に関して「ローカル」や「ゼネラル」といった枠を超えた分かち合いを思う存分させて頂ければと思います。

二日目は「東日本大震災とアルコール問題」と銘打った市民フォーラムを開催し、AA・自治体・医療関係者・AA以外の被災者支援のNPO団体の方々と共に、東日本大震災の影響により増え続けているアルコール問題の支援について話し合えたと考えています。今回、この市民フォーラムの準備に従事する中で多くの支援者や関係者の方々から開催についての賛同を頂き、AAの「広報活動」や「メッセージ活動」に対する関心の高さを伺う事が出来ました。

AAに「私たちの一番の財産は経験である」との言葉があります。一人一人の経験やそれぞれ地域での経験が新しい財産となる為にも多くの参加をお待ちしています。なお詳細については、各グループに配布されている開催速報やHP等を参照して頂ければと思います。宜しくお願いします。



編集・発行： NPO法人 AA日本ゼネラルサービス (JSO)

〒171-0014 東京都豊島区池袋4-17-10 土屋ビル3F Tel:03-3590-5377 Fax:03-3590-5419

<http://www.aajapan.org> jso-1@fol.hi-ho.ne.jp

(月～金) 10:00～18:00 (土・日・祝) 休